

文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」

美しい山形を活用した「社会人力育成山形講座」の展開

# 活動報告書

2012

## 目 次

|                              | ページ |
|------------------------------|-----|
| 1 事業概要 .....                 | 2   |
| 2 山形講座の開講科目 .....            | 2   |
| 3 先進事例調査 .....               | 6   |
| 4 海外研修現地調査 .....             | 1 1 |
| 5 連携取組評価 .....               | 1 2 |
| 6 I Rシステムの導入 .....           | 1 6 |
| 7 キックオフシンポジウム .....          | 1 6 |
| 8 広報 .....                   | 1 8 |
| 9 山形人材育成委員会 .....            | 2 0 |
| 1 0 平成24年度 山形人材育成委員会名簿 ..... | 2 5 |

# 文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」

## 美しい山形を活用した「社会人力育成山形講座」の展開

### 1. 事業概要

平成24年度大学間連携共同教育推進事業で選定された「美しい山形を活用した『社会人力育成山形講座』の展開」は、山形県全域の自然、歴史、文化、コミュニティ、産業、県民性等の多彩な地域資源を教育資源とし取り込み、さらには人口減少時代の地域の人材育成はどうあるべきかの視点も重視した連携取組である。その内容は、大学コンソーシアムやまがたに加盟する高等教育機関の教育の特色を活かした、フィールドワーク山形、山形プロジェクト教育、山形起業教育及びリーダーシップ教育の「社会人力育成山形講座」と連携取組評価等を柱として、コミュニケーション力、課題解決力、リーダーシップ等の社会人力を有した人材育成への取組みである。達成目標は、山形県の地域社会において活躍する、変える、担う人材を養成することであり、大学教育の質保証・向上にも適った取組である。

### 2. 山形講座の開講科目

「社会人力育成山形講座」として4つの教育を立ち上げ、平成25年度は以下の科目を開講することとした。また、山形講座を俯瞰する講義を1科目開講することになった。

#### 山形フィールドワーク教育 3科目

山形県の地域の魅力（自然・文科・歴史・産業）を体験的に学習します。地元講師の指導やチームでの学習を通じて、コミュニケーション力・行動力・チームワークを育成します。

#### 【科目名】「感じる山形1

～教科書の向こう側へ～

【担当教員】滝澤 匡（山形大学）

【開講形態】前期集中 2単位 演習

#### 【目的・概要】

山形県の地域の魅力（自然・文化・歴史・産業など）を、担い手の方々の指導により体験的に学習します。教科書では知ることができない情報を五感で学び、汗と苦勞の先に待つ喜びを肌で感じます。

そのなかで、講師による対話的な指導や集団での学習活動を通じて、「コミュニケーション力」・「行動力」・「チームワーク」・「組織における自己の確立」が養われます。

また、演習後に開催される成果報告会では「プレゼンテーション力」が身につきます。

#### 【科目名】「感じる山形2

～教科書の向こう側へ～

【担当教員】滝澤 匡（山形大学）

【開講形態】後期集中 2単位 演習

#### 【目的・概要】

山形県の地域の魅力（自然・文化・歴史・産業など）を、担い手の方々の指導により体験的に学習します。教科書では知ることができない情報を五感で学び、汗と苦勞の先に待つ喜びを肌で感じます。

そのなかで、講師による対話的な指導や集団での学習活動を通じて、「コミュニケーション力」・「行動力」・「チームワーク」・「組織における自己の確立」が養われます。

また、演習後に開催される成果報告会では「プレゼンテーション力」が身につきます。

#### 【科目名】「最上川の自然と文化」

【担当教員】下平 裕之（山形大学）

【開講形態】後期集中 2単位 講義

#### 【目的・概要】

最上川は、源流から河口まで229kmに及ぶ

日本有数の河川である。山形県の大部分が最上川の流域に含まれ、最上川と私たちの生活は深いかわりを持っている。最上川を通じて山形の自然と文化の独自性と多様性を学ぶ。

### 山形プロジェクト教育 10科目

地域の様々な課題を調査研究し、それに対する提案を行います。さらに課題の調査研究を通して地域の住民と接し、コミュニケーション力と課題解決力の育成を図ります。

【科目名】「地域デザイン」

【担当教員】横井 博（山形大学）

【開講形態】前期集中 2単位 講義・演習

【目的・概要】

設定された地域の課題について、事前学習と現地調査を踏まえて、どのように解決するか提案とプレゼンテーションを行うことにより、地域課題を地域づくりの構想・企画に変える地域デザインについて学習します。

また、これらの一連のプロセスを経て、課題解決力、コミュニケーション力、グループ内でのリーダーシップの社会人を養成します。

【科目名】「集落担い手養成プロジェクト1」

【担当教員】横井 博（山形大学）

【開講形態】前期集中 2単位 演習

【目的・概要】

過疎地域社会の集落では、自らの課題を、行政に頼らないで主体的、継続的に解決する自治運営が求められており、そのためには、企画立案・実践できる担い手育成が不可欠となっています。その解決対応を目指す集落担い手養成プロジェクトに参画しながら、特定集落の担い手育成地域課題について、調査・検討を深め、解決対応方策の諸検討を行います。これらの一連のプロセスを経て、課題解決力、コミュニケーション力、グループ内でのリーダーシップの社会人を養成します。

【科目名】「エコスタジアムプロジェクトを考えよう」

【担当教員】下平 裕之（山形大学）

【開講形態】前期集中 2単位 講義・実習

【目的・概要】

モンテディオ山形ホームゲーム開催地であるNDソフトスタジアムにおけるゴミ削減への取り組みを通じて、大規模イベントでの環境負荷軽減を考える。

【科目名】「地域と経済」

【担当教員】大川 健嗣（東北文教大学）

【開講形態】前期 2単位 講義・現地調査

【目的・概要】

地域社会、特に過疎地域では多くの課題に直面しています。本講義では、地域社会と地域経済の視点から現地調査を行い、過疎地域の現状把握と課題の発掘を行います。また、実際に地域のプロジェクトに参画し、調査・課題抽出をもとに課題解決策の提案・発表を行うことを目指します。これらの取り組みを通して、コミュニケーション力や課題解決力、プレゼンテーション力の向上を図ります。

【科目名】「プロジェクト型演習」

【担当教員】平林 千春（東北芸術工科大学）

【開講形態】前期 2単位 講義・演習

【目的・概要】

地域のリソースの拡充を目指し、山形県内で行われているさまざまなプロジェクトへの参画を通し、地域マネジメントの実際について学ぶ。Jリーグチームのモンテディオ山形のホームゲームのサポート活動等を中心に展開する。

【科目名】「農村観光を含む新規営農による集落の再生」

【担当教員】温井 亨（東北公益文科大学）

松山 薫（東北芸術工科大学）

【開講形態】前期集中 2単位 演習

【目的・概要】

集落存続の危機にある村山市五十沢地区で新規就農による村の再生を考え、具体的な提案を行うことを目的とします。そのために

受講者の皆さんには2つの作業をしてもらいます。1つは現実を踏まえた提案とするために、農水省の施策である「人・農地プラン」に落とし込む作業をします。これにより新規就農者への助成金が確保されます。

次に五十沢地区で就農したい、訪ねてみたいと思わせる地域の魅力を発見し、それをグリーンツーリズムとして展開する方法を考えます。

【科目名】「集落担い手養成プロジェクト2」

【担当教員】横井 博（山形大学）

【開講形態】後期集中 2単位 演習

【目的・概要】

過疎地域社会の集落では、自らの課題を、行政に頼らないで主体的、継続的に解決する自治運営が求められており、そのためには、企画立案・実践できる担い手育成が不可欠となっています。その解決対応を目指す集落担い手養成プロジェクトに参加しながら、特定集落の担い手育成地域課題について、調査・検討を深め、解決対応方策の諸検討を行います。これらの一連のプロセスを経て、課題解決力、コミュニケーション力、グループ内でのリーダーシップの社会人を養成します。

【科目名】「実践的コミュニケーション学」

【担当教員】福島 真司（山形大学）

【開講形態】後期集中 2単位 演習

【目的・概要】

コミュニケーション能力を高めるためには、理論的な背景を知ることよりも、実践的に他者と接触する「場面」を数多く経験することが必須となる。しかもその場面は、一大学の学生同士といった同質集団内の接触ではなく、普段接触することの少ない多様性の高い集団との接触が重要である。本授業では、他大学の学生、企業の方々等と、対面での議論、webを通じた議論等数多くの場面を持つことを通して、実践的なスキルアップを目指す。

【科目名】「地域作りとその手法」

【担当教員】大川 健嗣（東北文教大学）

【開講形態】後期集中 1単位 演習

【目的・概要】

多くの課題を抱える過疎地域での現地調査を通して、地域課題を発掘し、学生同士での議論や分析を行います。そこから解決の糸口を見つけ出し、その成果を発表することを目指します。また本講義は、前期授業の「地域と経済」での取り組みを踏まえながら、実際に地域のプロジェクトに参画し、地域づくりの手法について体験的に学びます。授業を通して、コミュニケーション力や課題解決力、プレゼンテーション力の向上を図ります。

【科目名】「ボランティア実習」

【担当教員】土居 洋平（東北文教大学短期大学部）

【開講形態】後期 1単位 講義・演習

【目的・概要】

この科目では、県内のNPO／ボランティア活動に参加し、ボランティア活動の実態、意義、社会的役割を学ぶことを目標とします。また、実体験をもとに活動の意義、課題を考えることで、ボランティアについてのより深い理解を得ることを目指します。

## 山形起業教育 9科目

身の周りの問題を見つけ、生活がより良くなるための解決方法を探し、企業などが常に求めている仕事の原理を学びます。

【科目名】「起業論」

【担当教員】池田 知之（東北芸術工科大学）

【開講形態】前期 2単位 講義

【目的・概要】

起業家精神とマネジメントの実態に触れ、「社長」の意識でいきいきと働く人材の育成を目標としている。

会社経営を目指している、フリーランスで事業を行っていかこうとする人だけでなく、組織の中でリーダーシップを発揮したいと考える人を対象とする。

【科目名】「起業演習」

【担当教員】池田 知之(東北芸術工科大学)

【開講形態】前期 2単位 演習

【目的・概要】

起業家精神とマネジメント手法を学びながら、グループワーク形式で実際にプロセスを体験し、起業に対して理解を深めることを目指す。

【科目名】「アントレプレナーシップ論Ⅰ」

【担当教員】青木 孝弘(東北公益文科大学)

【開講形態】前期 2単位 講義・演習

【目的・概要】

起業に必要なマインドや仕事術について、山形県内で活躍する若きアントレプレナー(起業家)への聴き取り調査から、主体的に学習します。

【科目名】「アントレプレナーシップ演習Ⅰ」

【担当教員】青木 孝弘(東北公益文科大学)

【開講形態】前期 2単位 講義・演習

【目的・概要】

起業に係る法律や財務会計、組織運営等の知識を、実際に会社設立のプロセスを体験しながら、習得します。

【科目名】「起業家ビジネス論」

【担当教員】池田 知之(東北芸術工科大学)

【開講形態】後期 2単位 講義

【目的・概要】

起業家の視点を学び、最新の経営理論を取り入れながら事例を交えた実践による研究を行う。

【科目名】「起業家ビジネス演習」

【担当教員】池田 知之(東北芸術工科大学)

【開講形態】後期 2単位 演習

【目的・概要】

起業家の視点を学び、最新の経営理論を取り入れながらグループワーク形式で実際にプロセスを体験し、起業家視点の理解を深めることを目指す。

【科目名】「アントレプレナーシップ論Ⅱ」

【担当教員】青木 孝弘(東北公益文科大学)

【開講形態】後期 2単位 講義・演習

【目的・概要】

ビジネスプランニングの手法を学び、起業にとって不可欠な事業構想力の基礎を築きます。顧客に買って頂く仕組み(マーケティング)と、持続する仕組み(戦略的マネジメント)を学ぶとともに、実際にまちを視察して得たアイデアを練り、ビジネスプランを作成します。

【科目名】「アントレプレナーシップ演習Ⅱ」

【担当教員】青木 孝弘(東北公益文科大学)

【開講形態】後期 2単位 講義・演習

【目的・概要】

起業に係る法律や財務会計、組織運営等の知識、および新規サービス開発を、実際に会社運営を体験しながら、習得します。また、PDCA サイクル、BSC(バランススコアカード)による業績評価を実践的に学習します。

【科目名】「社会起業家論」

【担当教員】西田 みづ恵(東北公益文科大学)

【開講形態】後期集中 2単位 講義

【目的・概要】

社会起業家が、各々の地域が抱える課題を解決するために、どのように様々な主体が協働する仕組みを作っているのか、その具体的方策について、事例と理論から学びます。そして、授業後には、地域の課題を解決するための何らかの行動を起こすことを目指し、課題発見解決力、コミュニケーション力、創造力・企画力・リーダーシップを、ケース教材を用いたディスカッション、グループワーク、理論研究などによって育成します。

#### リーダーシップ教育 4科目

次の時代や社会を切り拓くリーダーシップ意識を作り出します。状況変化が生じて新たな問題に直面する場合の対応能力、チームを牽引できる力を育成します。

【科目名】「リーダーシップ論Ⅰ」

【担当教員】柴田 孝（山形大学）

【開講形態】前期集中 2単位 講義

【目的・概要】

人生の難問には簡単な解決方法など無いと言われています。その中で「どうすれば豊かなキャリアを歩めるだろうか」。本授業では人生の状況変化に応じて賢明な選択をする手助けとなる「ものの見方」「考え方」や「行動の仕方」を学びます。なぜ今、皆さんにリーダーシップ論が必要なのか、理解を深めていただき、皆さんが歩んできた人生を振り返り「自分史」の作成や今後の目標や夢を描いて「キャリアデザイン」を作っていただきます。

【科目名】「リーダーシップ論Ⅱ」

【担当教員】柴田 孝（山形大学）

【開講形態】前期集中 2単位 講義・演習

【目的・概要】

人生の難問には簡単な解決方法など無いと言われています。その中で「どうすれば豊かなキャリアを歩めるだろうか」。本リーダーシップ論では人生の状況変化に応じて賢明な選択をする手助けとなる「ものの見方」「考え方」や「行動の仕方」を学びます。リーダー実践者の持論に触れ、議論と対話と一人ひとりの内省（振り返り）を通して、受講生一人ひとりのリーダーシップ感（素論）を磨くことを目標としています。

【科目名】「リーダーシップ論Ⅲ」

【担当教員】柴田 孝（山形大学）

【開講形態】後期集中 2単位 講義・演習

【目的・概要】

人生の難問には簡単な解決方法など無いと言われています。その中で「どうすれば豊かなキャリアを歩めるだろうか」。本リーダーシップ論では人生の状況変化に応じて賢明な選択をする手助けとなる「ものの見方」「考え方」や「行動の仕方」を学びます。ここではリーダー実践者の持論に触れ、現場での体験を中心に学習します。実体験を通してリーダーシップ感を醸成してキャリアデザ

インに役立っています。

【科目名】「リーダーシップ論Ⅳ」

【担当教員】柴田 孝（山形大学）

【開講形態】後期集中 2単位 演習

【目的・概要】

人生の難問には簡単な解決方法など無いと言われています。その中で「どうすれば豊かなキャリアを歩めるだろうか」。本リーダーシップ論では人生の状況変化に応じて賢明な選択をする手助けとなる「ものの見方」「考え方」や「行動の仕方」を学びます。ここでは海外（ベトナム）での課題解決型リーダーシップ体験や現地企業での就労体験を通してグローバル・リーダーに必要な資質について学びます。

### 導入科目 1科目

【科目名】「山形を知り、山形を愛し、山形で働き、山形を担う」

【担当教員】安田 弘法、滝澤 匡（山形大学）

【開講形態】前期 2単位 講義

【目的・概要】

山形県は人口減少により人的資源が著しく乏しい状況にあります。そのような中、山形で活躍し、地域社会を変革して、将来の山形を担う人材の養成が不可欠です。この科目では、山形の歴史、人物、自然、文化、産業、地域、社会などを多面的に学び、山形で働き、担うために必要なことを考えます。山形県の地域・社会・企業等において「活躍する」「変える」「担う」人材の育成を目標としています。

## 3. 先進事例調査

共同教育FD事業に関する先進事例調査を以下のように行った。

■ 金沢大学が代表校として採択された「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成

システムの構築」(以下、金沢大学G P)について、及び大学コンソーシアム石川が実施している「地域課題研究ゼミナール支援事業」について

#### ○趣旨

金沢大学G Pでは山形講座のねらいである課題解決力の育成についてどのような視点で実施しようとしているのか、またその実施と大学コンソーシアム石川との関連性等について視察し、今後の山形講座の進め方の参考とする。

#### ○期間

平成25年1月21日(月)～22日(火)

#### ○視察者

大川健嗣 東北文教大学・山形人材育成委員会共同教育部会長  
横井 博 山形大学・山形人材育成委員会企画運営部会長  
鈴木啓伸 山形大学・大学コンソーシアムやまがた事務局長  
井上美樹 山形大学・山形人材育成委員会共同教育部会担当

#### ○行程

21日(月) 山形市～金沢市(移動日)  
22日(火) 午前  
金沢市 大学コンソーシアム石川

#### ○視察内容詳細

##### (1) 応対者

古畑徹 金沢大学人間社会研究域歴史言語文化系教授  
池田幸應 金沢星陵大学人間科学部教授  
山本正一 大学コンソーシアム石川事務局長  
木井将貴 大学コンソーシアム石川主幹

##### (2) 説明等事項

① 金沢大学G Pの「課題解決型人材育成」は、大学コンソーシアム石川が平成17年から始めている「地域課題研究ゼミナール(助

成額1件につき30万円以内)」及び平成19年から始めている「地域貢献型学生プロジェクト推進事業(助成額1件につき15万円以内)」の成果から生まれている。ちなみに、平成24年度「地域課題研究ゼミナール」の地域から58の提案件数がありそのうち19件を採択しているという状況である。また、「地域貢献型学生プロジェクト推進事業」は30の地域からの提案件数があり、そのうち11件を採択している。このように、それだけ当該事業に対する地域の満足度や納得度が高い評価となっている。そのような実績をこのたびの金沢大学G Pでは「地域課題のジャスト・イン・タイム・システム」というものに構築しようとしている。

② 「地域課題研究ゼミナール」等の特徴として、報告会での交流を重視(全てに奨励賞)していること、単位と連動しているわけではないこと(大学の判断であるが)、修了証をインセンティブとして大学を越えて発行していること、この事業推進の原動力でもあるが見える形で地域に入っていること、といった事項があげられる。

③ 実施体制については、当該G Pの統括本部を大学コンソーシアム石川の運営委員会のもとに置き、運営委員会委員長が本部長を兼務する。また、統括本部のもとに、地域のステークホルダーが参加する推進会議を置き、さらに具体的に事業を進めるために5つの事業グループを置く、としている。

##### (3) 感想

大学コンソーシアム石川の地域と大学(教育)との連携実績がこのたびのG Pの基になっている。このように自治体との連携成果は見るべきものがあり、山形のG Pや大学コンソーシアムやまがたの事業において、自治体連携のあり方は今後の重要なテーマである。

■ 大学コンソーシアム京都が実施しているインターンシップ・プログラム(コーオペ教育)について



### ○趣旨

山形講座が取り組もうとしているコーオプ教育について視察し、今後の山形講座の進め方の参考とする。

### ○期日

平成25年1月22日(火)

### ○視察者

大川健嗣 東北文教大学・山形人材育成委員会共同教育部会長  
横井 博 山形大学・山形人材育成委員会企画運営部会長  
鈴木啓伸 山形大学・大学コンソーシアムやまがた事務局長  
井上美樹 山形大学・山形人材育成委員会共同教育部会担当

### ○行程

22日(火)午後

京都市 大学コンソーシアム京都

### ○視察内容詳細

#### (1) 応対者

徳永寿老 大学コンソーシアム京都事務局長  
徳永智史 大学コンソーシアム京都教育事業部次長

#### (2) 説明等事項

① このプログラムは、1998年度から全国に先駆けて開始されており、10年を超える豊富な実績がある。延べ約7,200名の学生と4,100を超える企業等が参加している。インターンシップ参加学生は例年約9割が「満足」という回答を示している。

② 大学コンソーシアム京都は、学生募集広報、出願受付の事業運営に当たる。また、リスク管理対策室を設けて、受け入れ先担当者や学生からの相談に対応している。事前・事後学習は業種・業界ごとに15~20名のクラスを編成して、各大学の教員がコーディネートする形で行われ、学生をサポートしている。

③ 「短期実践型インターンシップ」と「長期プロジェクト型インターンシップ」の二つのプログラムがある。前者は、夏期休暇中の約2週間から1カ月程度(実働10日間以上)にわたって行われるもので、ビジネスコースとパブリックコースに分かれて行われる。実習に参加する学生の約9割を占めている。2012年度は約680名の応募があり、約380名が参加した。後者はプログレスコースとして行われており、受け入れ先が提示するテーマ・課題に対して約6カ月のプロジェクト型、成長重視型のインターンシップである。2012年度実施のプロジェクトとして、京都府教育委員会の「教員養成サポートセミナー」、株式会社弘の「飲食店アルバイトスタッフに向けた課題解決コンサルティング(成果とやりがいを創出する)」などがある。

### (3) 感想

山形講座にとって、大学コンソーシアムやまがたにとって、それぞれ非常に参考となるインターンシップ・プログラムである。山形の場合は、このようなモデルプログラムを念頭に置いて、まずは先行する大学の取り組み事例をいかに作っていくかということから始めていく必要があるのではないだろうか。

■ 龍谷大学が代表校として採択された「地域資格制度による組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化」(以下、龍谷大学GP)について

### ○趣旨

龍谷大学GPでは、大学が地域社会の課題にパートナーの一員となって取り組む組織的で恒常的な仕組みを構築する、ということを目指しているが、その内容等について視察し、今後の山形講座の進め方の参考とする。

### ○期日

平成25年1月23日(水)

## ○視察者

大川健嗣 東北文教大学・山形人材育成委員会共同教育部会長  
横井 博 山形大学・山形人材育成委員会企画運営部会長  
井上美樹 山形大学・山形人材育成委員会共同教育部会担当

## ○行程

23日(水) 午前  
京都市 龍谷大学

## ○視察内容詳細

### (1) 応対者

白石克孝 龍谷大学政策学部学部長、地域協働総合センターセンター長  
大石尚子 龍谷大学地域協働総合センターリサーチ・アシスタント  
岩崎慎平 龍谷大学地域協働総合センター博士研究員  
久保友美 一般財団法人地域公共人材開発機構事務局次長  
橋本洋平 龍谷大学政策学部教務課

### (2) 説明等事項

#### ① 「地域公共政策士」資格制度について

これは、平成20～22年度文科省戦略的  
大学連携支援事業の取組として開発された  
ものである。

地域活動や政策形成においてコーディネ  
ートできる人材を「地域公共人材」とし、そ  
のような人材が持つべき知識や経験、能力を  
見える化する仕組みとして、2011年度か  
ら本格的にスタートしたのが、公共で働くた  
めの職能資格「地域公共政策士」制度である。

「地域公共政策士」資格取得の流れは次の  
ようになっている。

大学等が提供する「地域公共政策士」資格  
教育プログラム(学士レベルと修士レベル  
あり)を履修→共通プログラム「キャップ  
ストーン」と「特別講義」の履修→地域公  
共人材開発機構に申請・認定→「地域公共  
政策士」資格取得

この地域公共人材開発機構は、「地域公共  
政策士」の資格教育プログラムの質を担保す

るために社会的認証を行う認証機関である。  
一般財団法人として大学(同志社大学、立命  
館大学、龍谷大学の3大学)、京都経済団体  
協議会及び個人から基金(基本財産として  
300万円)が拠出されて2009年1月に  
設置された。

#### ② 龍谷大学GPについて

龍谷大学GPは大学立地がない地域にお  
ける大学地域連携のモデルを構築すること  
に重点的に取り組むもの。京都府北部地域の  
唯一の大学である成美大学に大学地域連携  
オフィスを設置し、京都府や自治体、NPO、  
経済団体と共に組織した京都府北部地域・大  
学連携機構をとおして大学共同の課題解決  
型の教育プログラムの開発を目指す。なお、  
2年半にわたる北部地域との地域大学連携  
取組の経過がある。

次の段階で、地域公共政策士資格教育プロ  
グラムを開発されたプログラムに埋め込む  
ことで、教育の質保証を指向している。

### (3) 感想

① 龍谷大学GPには、大学間で教育プロ  
グラムを調査研究し、その蓄積が次のプロ  
ジェクト(GP)につながっていく、という  
プロセスを見ることができる。また、教育  
プログラムという形に調査研究の成果を  
まとめることは、大学を連携するための  
重要な要素である。

② 地域公共政策士資格制度は内容的、  
制度的に極めて参考となる。

③ 龍谷大学GPの取組内容は、EU及び  
アメリカの高等教育の研究調査事項を  
基にして、その日本版を作成したもの  
となっている。一歩先んじた取組  
みとするためにもそのような  
グローバル的視野をもつことの  
重要性を痛感する。山形版で  
このような状況を考えれば、  
まずは大学コンソーシアム  
やまがた内にそのような  
シーズの調査研究を行う  
機能が必要なのではない  
だろうか。

■ お茶の水女子大学「女性リーダーを創出  
する国際拠点の形成(文科省特別経費プロ  
ジ

エクト平成22～27年度)」(以下、お茶の水女子大学G P) について

#### ○趣旨

お茶の水女子大学G Pでは山形講座のねらいであるリーダーシップの育成についてどのような視点で何を実施しようとしているのか等について視察し、今後の山形講座の進め方の参考とする。

#### ○期日

平成25年2月18日(月)

#### ○視察者

柴田 孝 山形大学・山形講座リーダーシップ教育担当  
横井 博 山形大学・山形人材育成委員会企画運営部会長  
庄司有里 山形大学・山形人材育成委員会企画運営部会担当

#### ○行程

18日(月) 午前

文京区 お茶の水女子大学

#### ●視察内容詳細

##### (1) 応対者

鷹野景子 お茶の水女子大学副学長、附属図書館長  
頼住光子 お茶の水女子大学リーダーシップ養成教育研究センター長

##### (2) 説明等事項

① 「みがかずば」の理念(→昭憲皇太后から下賜された、校歌「みがかずば 玉もかがみも なにかせん 学びの道も かくこそありけり」の「みがかずば」であり、お茶の水女子大学の教育理念)に基づいた女性のリーダーシップを育成するための教育と環境づくりとしている。

② お茶の水女子大学G Pの取組内容は次のとおり。

・女性リーダー育成のための授業及び講演会(授業としては「女性リーダーへの道」を設

け、入門編、ロールモデル入門編、実践入門編を行っている。山形県知事吉村美栄子氏も登壇。)

- ・世界で活躍できる若手研究者の育成
- ・学生自主企画の実施支援(学内新聞「お茶娘タイムス」の発行、風評被害に悩む福島産野菜を使用したスイーツ販売、マッサージボランティア等実施)
- ・女性研究者支援
- ・科学技術立国を担う次世代リーダー育成啓蒙(4女子大学-お茶の水、津田塾、東京女子、日本女子-共催イベントとして「サイエンス・フェスティバル」開催)
- ・A-WiL 国際シンポジウム(2012年開催、参加大学は、韓国・梨花女子大学、アメリカ・マウントホリヨーク大学、イタリア・コレージュ・ヌオーヴォ大学、お茶の水女子大学)

③ 実施体制は、男女共同参画推進本部のもとに「リーダーシップ養成教育研究センター」を置いて全学体制をしいている。

#### (3) 感想

特に女性リーダーとして求められるべき資質は何か?という難しいと思われる質問に対し、「しなやかさ(confidence)」という答がかえってきた。なるほどである。

#### ■ 東京大学各務教授のリーダーシップ論について

#### ○趣旨

企業と大学のシーズを連携させる事業の視点からリーダーシップとはどのようなものかについて拝聴し、今後の山形講座の進め方の参考とする。

#### ○期日

平成25年2月18日(月)

#### ○視察者

柴田 孝 山形大学・山形講座リーダーシッ

プ教育担当  
横井 博 山形大学・山形人材育成委員会企画  
運営部会長  
庄司有里 山形大学・山形人材育成委員会企画  
運営部会担当

#### ○行程

18日(月)午後  
文京区 東京大学

#### ○視察内容詳細

##### (1) 応対者

各務茂夫 東京大学産学連携本部事業化推  
進部長、教授

##### (2) 説明等事項

① 起業家教育のプランからアクションへ  
の間には相当大きな隔りがある。学生に死  
生観を補完する濃密な人間関係(折れない  
心)があるかどうか。

##### ② リーダーシップについて

困難にどう立ち向かうかがポイント。そも  
そもパッションとは「受難」である。その場  
合、古典を使うことがよくあるが、それは困  
難、誘惑への対応を学ぶことができるからだ。  
改革は受難を伴う。だから、精神論を超えた  
何かが必要とされる。

##### ③ アクションラーニング

NPO法人ETIC、文京区、東京大学の  
コラボ事業を展開している。社会起業家育成  
が目的であるが、実質的ねらいは、難しい場  
面に遭遇すること、不勉強を知ること、大人  
と子供は何が違うのかを知ること、である。

##### ④ リーダーシップの評価について

個人がどういう貢献をしたか、が評価のポ  
イント。しかし、特定の期間では難しい。ビ  
ジネススクール(アメリカ)の場合は、どう  
いう決定をしたか(まとめられるか、答えら  
れるか)についてストレスを与えて発表させ  
ている。またヨーロッパは人の話をまとめる  
ことに力点を置く。それは、部分否定しそこ  
にビルトオンできるか、身近なことを現代的  
に置き換えられるか(あてはめられるか)、  
という視点である。

## 4. 海外研修現地調査

**調査趣旨:** リーダーシップ論Ⅳにおけるベト  
ナム(ハノイ農業大学)での海外演習先(平  
成25年11月17日(日)~24日(日)  
予定)の受入れ施設見学や担当部門との実施  
計画全般の確認及び課題の抽出等の事前確  
認を行う。

**調査期間:** 平成25年3月8日(金)~  
3月14日(木)

**参加者:** 安田弘法理事、柴田孝教授、滝澤  
匡准教授(渉外課プロジェクト教員)、尾形  
睦教務補佐員(渉外課)

現地同行: 大崎直太教授(国際交流担当)

#### 主な調査内容:

##### 1. 実習計画の有効性と修正・課題の抽出に ついて

- ・ハノイ農業大学への受け入れ依頼と施設見  
学
- ・受入れ予定のグループ(日本語研修生)へ  
の趣旨説明と実施のための課題の把握
- ・実習テーマの事前打合せと現地見学
- ・安全面の確認

##### 2. 現地調査

- ・大学内施設見学(宿泊予定、教室、食事等)
- ・大学周辺の見学(農場、商店街、市場等)
- ・ハノイ農業大学の参加予定学生との意見交  
換

#### ハノイ農業大学と山形大学の関係

山形大学と学术交流協定を結び、これま  
でに学生の短期留学や日本語チューターの交  
流事業が行われている。またハノイ農業大学  
内に山形大学のサテライトが開設されてい  
る。

#### ハノイ農業大学概要

ハノイ農業大学は、1956年に設立され、  
ベトナムの農業大学では最も教育や研究の

評価が高く、200ヘクタールの敷地に13学部、12附属研究所を持つ大規模な大学です。学生数は約25000人、教職員数約1300人で、欧米や日本及びアジア諸国の大学と共同研究や国際交流を行っている。

### 3. 演習課題の決定プロセス

参加予定のハノイ農業大学の学生と意見交換して次のようなことを決めた。

- ①ハノイに演習に行く前に、ハノイ農業大学の受入グループのリーダーとなる学生が山形を訪問して演習に参加する日本人の学生と事前の意見交換（7月か8月頃）を行い、テーマ選定やグループの構成、演習の実施方法を事前に話し合う。
- ②安全面を考慮してハノイ市内ではなくハノイ農業大学の周辺の市場や農場などで課題を捜し演習を実施する。

### 調査スケジュール

- ・ 3月8日 成田に移動
- ・ 3月9日 ハノイ着  
大崎教授と事前打合せ  
ハノイ農業大学の学生と懇談
- ・ 3月10日

#### ハノイ農業大学の施設見学

国際交流センター、日本語教室、留学生宿泊施設、現地学生寮、大学周辺の商店街、農場、市場

#### 参加予定現地学生（日本語研修生）との意見交換

演習計画を説明して演習の内容や課題を話し合い問題点を洗い出した。

#### 演習テーマ

ハノイ農大学の受入グループのリーダーと演習テーマについて意見交換を計画する。

課題はハノイ農業大学及びその周辺で探す。手ごろなテーマ（環境問題や市場関連）は多数見受けられた。

- ・ 3月11日～13日  
演習を想定し、大学周辺を探索した。テーマの候補を確認しながら大学周辺マーケット、大学周辺農場を調査した。

ハノイ農業大学副学長、国際交流担当者、日本語教室の現地学生、大崎教授と訪問メンバーで懇親会を開き、協力を要請した。ハノイ農業大学の学生からリーダーシップⅣのグループ演習に関して多くの意見と関心を持ってもらうことができた。

研修を想定したハノイ市内の見学。

ハノイ市街地での演習は交通面での安全や治安などを考慮し、短期間での課題解決型演習の実施は難しいと判断した。

- ・ 3月14日 成田着



ハノイ農業大学学生と意見交換

## 5. 連携取組評価

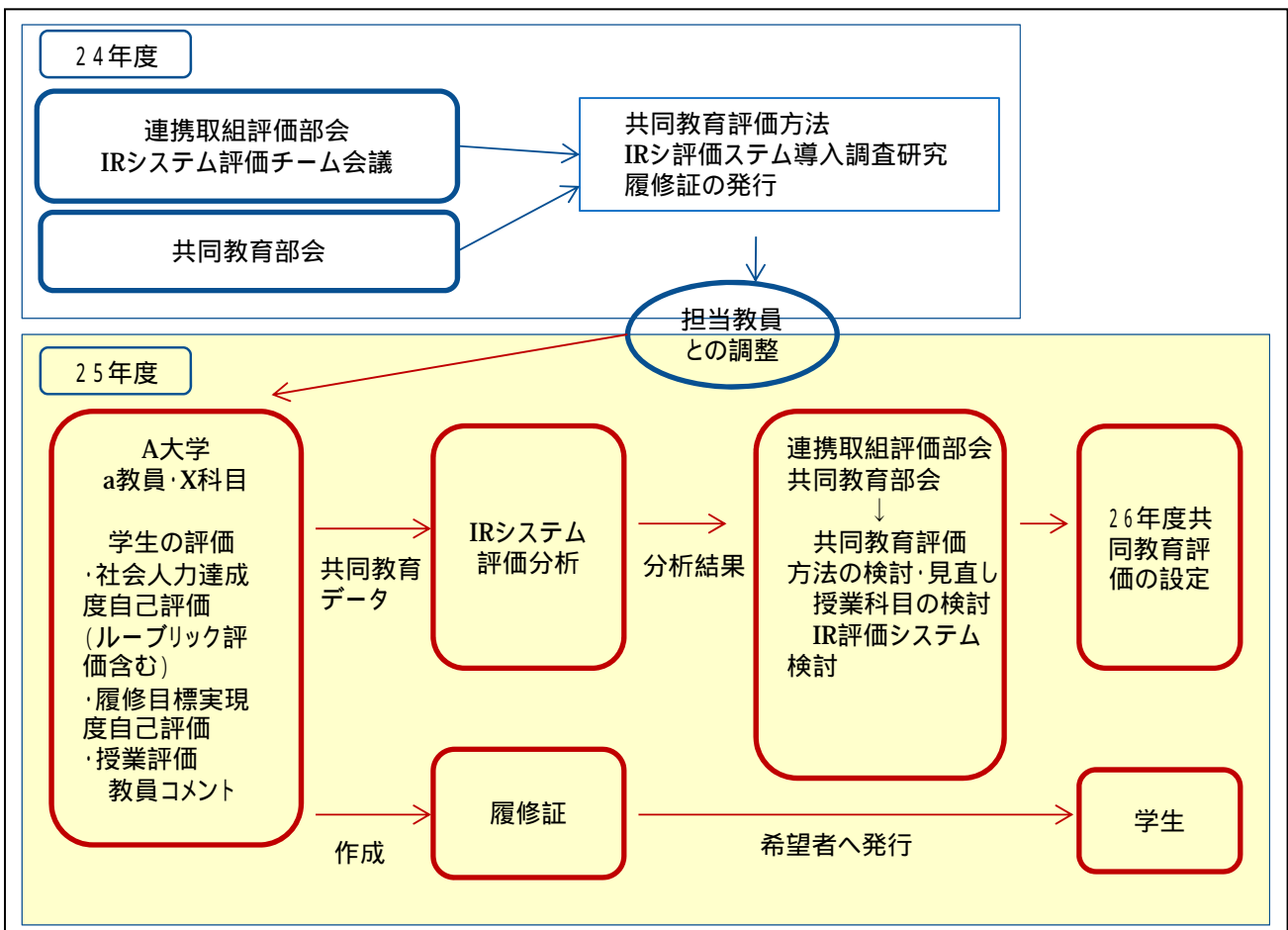
連携取組評価部会及び教育評価チームにおいて、平成25年度山形講座の教育評価方法について検討を行い、次のように評価方法を定めた。

- (1) 連携取組評価事項と共同教育評価  
表1のとおり
- (2) 評価プロセス 表2のとおり
- (3) 共同教育評価の25年度方針
  - ①25年度の共同教育評価は試行的（部分的）に行う。26年度以降は、その結果を踏まえて方針を固める。
  - ②共同教育評価は、山形講座により学生の社会人力（コミュニケーション力、課題解決力、リーダーシップ）がどれだけ育成されたかの視点で行う。
  - ③山形講座で学生が設定する履修目標がどれだけ実現されたかの視点も加えて行う。

表1 連携取組評価事項と共同教育評価

| 評価事項                                      | 評価内容  | 評価方法                                     |
|---|---|--|
| 1 学生の社会人力育成<br>(1) 社会人力育成                 | ①山形講座による学生の社会人力<br>(コミュニケーション力、課題解決力、リーダーシップ)の達成度<br>②山形講座による学生の目標実現度 | ①学生の自己評価<br>②教員の評価<br>①学生の自己評価<br>②教員の評価 |
| (2) 教育プログラムの確立                            | ①山形講座の各授業科目プログラムの確立度  | ①学生、教員の評価                                |
| (3) 400人                                  | ①実績   |  |
| 2 地域の人材育成<br>(1) 山形県で活躍する、<br>変える、担う人材の育成 | ①社会人力育成山形講座受講生の山形県で活躍したい等の意識  | ①学生の意向                                   |
| (2) 地域総がかりで取り組むこと                         | ①社会人力育成山形講座が及ぼす地域における人材育成への影響度  | ①ステークホルダーの意向                             |

表2 評価プロセス



(4) 社会人力達成度自己評価書  
表3のとおり

表3 社会人力達成度自己評価書

| 評価項目                              | 達成度      |
|-----------------------------------|----------|
| ①（規律性）挨拶が行われている                   | 5よくできた   |
| ②（傾聴力）相手の話を聞く（理解する）ことができる         | 4できた     |
| ③（発信力）相手に自分の意見を伝えることができる          | 3おおむねできた |
| ④（柔軟性）相手とその場に合った対話ができる            | 2努力を要する  |
| ⑤（働きかけ力）目的にそって相手に働きかけができる         | 1分からない   |
| ⑥（働きかけ力）その場を修復するように相手と対応することができる  |          |
| ①（現状把握力）現状を把握することができる             |          |
| ②（現状分析力）現状を分析することができる             |          |
| ③（課題発見力）現状から課題を設定（発見）することができる     |          |
| ④（課題解決力）設定された課題を解決する提案ができる        |          |
| ⑤（提案力）設定された課題を解決する提案を表現することができる   |          |
| ①（行動力）求められている時に行動を成し遂げることができる     |          |
| ②（模範力）他の範となるような言動を行うことができる        |          |
| ③（統率力）グループをまとめ、誘導するような行動を行うことができる |          |
| ④（自己実現力）自分の求めている事を成し遂げることができる     |          |

(5) 社会人力履修目標実現度評価  
表4のとおり

(6) 授業評価  
学生からの授業改善アンケート調査も行う。

(7) 履修証

①目的

- ・履修の可視化
- ・（山形講座履修のインセンティブ）履修証の社会的（就職活動）活用

②発行

- ・担当教員と人材育成委員会委員長の共同発行。
- ・発行は学生の要請による。
- ・1科目につき1履修証
- ・原則として平成26年度から発行するが、25年度については部分的に発行することができる。

③履修証のイメージ

表5のとおり

表4 社会人力履修目標実現度自己評価書

|       |   |
|-------|---|
| 受講開始時 | ○社会人力履修目標設定<br><例：コミュニケーション力を高めたい>  |
| 受講中   | ○目標に対する自己評価<br>・よく実現した ・実現した ・おおむね実現した ・まだ努力を要する ・分からない<br>○評価内容<br><例：相手の意見を聞いて理解するが、うまく主張できない><br>○教員コメント   |
| 受講終了時 | ○社会人力履修目標実現度<br>・よく実現した ・実現した ・おおむね実現した ・まだ努力を要する ・分からない<br>○自分はどう変わったか<br>(1) .....<br>(2) .....<br>(3) .....<br>○何を学んだか<br>(1) .....<br>(2) .....<br>(3) .....<br>○教員コメント |

表5 履修証イメージ

|                   |         |
|-------------------|---------|
| 社会人力育成山形講座        |         |
| 履修証               |         |
| 氏名                | ○○○○    |
| 履修科目              | ○○○○○○○ |
| 平成25年△～△月履修       |         |
| 何を学んだか (※学生記載事項)  |         |
| .....             |         |
| .....             |         |
| 担当教員コメント (※激励型)   |         |
| .....             |         |
| 平成○○年○○月○○日       |         |
| 科目担当教員 ○○○        |         |
| 山形人材育成委員会委員長 安田弘法 |         |



## 6 . I Rシステムの導入

I Rシステム評価チーム会議において、I Rシステムとは何か、I R導入に関わる諸課題等について意見交換を行い、平成25年3月にI Rシステムを導入した。

I Rシステム評価の構築目的は、①共同教育評価について分析し、共同教育の社会人力に関する教育効果を明らかにすること、②共同教育評価情報と学生関連情報の相関性を分析し、出口効果等の共同教育の教育効果を明らかにすること、である。

平成25年度は、学生に授業開始時、授業終了時に授業についてのアンケートを行い、そのデータを基にして、社会人力、コミュニケーション力、課題解決力、リーダーシップがどの程度身に付いたかを数値化し、分析することを旨とする。

## 7 . キックオフシンポジウム

県民の皆さまに、当事業および社会人力育成山形講座とはどのようなものかを広く知ってもらうために、キックオフシンポジウムを開催し、約150名が参加した。

**タイトル：**山形県民シンポジウム  
「挑戦！山形で活躍する人づくり」  
～美しい山形を活用した「社会人力育成山形講座」キックオフシンポジウム～

**日時：**平成25年3月15日（金）  
シンポジウム 13：30～17：00  
情報交換会 17：30～19：30

**会場：**ホテルキャッスル  
シンポジウム 2階 弥生の間  
情報交換会 2階 シュノンソー

**対象：**山形県民、県内企業関係者、県内自治体関係者、県内教員関係者、教職員関係者、

学生

### プログラム

#### 開会

#### 主催者挨拶

#### 第1部 基調講演

「激動期の人材育成」

東北公益文科大学学長 町田 睿氏

#### 第2部 事業内容の紹介

##### ①事業全体説明

山形大学 教授 横井 博

##### ②各教育内容説明

◆山形フィールドワーク教育

山形大学 准教授 滝澤 匡

◆山形プロジェクト教育

東北文教大学 教授 大川 健嗣

◆山形起業教育

東北芸術工科大学 講師 池田知之

◆リーダーシップ教育

山形大学 教授 柴田 孝

#### 第3部 パネルディスカッション

テーマ：「山形県における人づくり」

コーディネーター

山形大学 理事 安田 弘法

##### ①話題提供

山形県の発展を担う人材育成への期待

山形県企画振興部企画振興課

企画主幹 玉木 康雄 氏

起業から見た人材育成への要望と現状

スズキハイテック株式会社

代表取締役社長 鈴木喜代壽 氏

大学がなすべき人材育成のあり方

山形大学 教授 柴田 孝

学生が感じている社会に出る不安や希望

東北芸術工科大学芸術学部

3年 齋藤 翔太 氏

東北公益文科大学公益学部

3年 武田 拓也 氏

##### ②パネリストによる質疑応答と参加者との討論

##### ③総括・議論のまとめ



山形新聞  
平成25年3月3日(日)



山形新聞  
平成25年3月6日(水)



山形新聞  
平成25年3月16日(土)



山形新聞  
平成25年3月30日(土)



## 8. 広報

「美しい山形を活用した『社会人力育成山形講座』の展開」の広報を下記のとおり行った。

### YTS「提言の広場」での広報

放送日：平成24年2月16日(土)

時間：7:30~8:00

出演者：

山形経済同友会 株式会社天童木工  
取締役社長 加藤昌宏

山形大学理事 安田弘法

山形大学 人文学部1年 田中文奈

東北公益文科大学 公益学部

3年 武田拓也

## ホームページの開設

開設日：平成25年2月26日（火）

URL: <http://sodateru-y.jp/>



## パンフレットの作成

当事業の概要を紹介した、主に一般、企業、自治体向けのパンフレットを作成し、関係者へ配布した。

仕様：A3判2つ折り、両面、フルカラー  
数量：20,000部

1. 概要
2. 山形講座4つの教育の紹介
3. 単位互換、履修証、自己評価について
4. 経済界、代表校からのメッセージ



パンフレット表紙

## ハンドブックの作成

当事業で開講する授業内容を掲載した、主に学生向けのハンドブックを作成し配布した。

仕様：A5、中綴じ、フルカラー、38頁  
数量：11,000部

1. 授業開講メッセージ
2. 山形講座、4つの教育の紹介
3. 平成25年度開講予定授業一覧
4. 各授業の概要、紹介
5. 単位互換、自己評価、履修証について



ハンドブック表紙

## 山形起業教育(東北公益文科大学)の広報

コミュニティ新聞

平成25年3月22日(金)



山形新聞

平成25年3月23日(土)



コミュニティ新聞

平成25年3月29日(金)



山形新聞

平成25年3月22日(金)



## 9. 山形人材育成委員会

平成24年10月～平成25年3月にかけて下記のとおり山形人材育成委員会総会および部会等を開催した。

### 【山形人材育成委員会総会】

#### 第1回山形人材育成委員会総会

日 時 平成24年10月29日(月)  
15:00～17:00

場 所 ゆうキャンパス・ステーション

出席者 21名

#### [議 題]

- 1 開 会
- 2 あいさつ

大学間連携共同教育推進事業代表校

山形大学理事・副学長 安田 弘法

- 3 「大学間連携共同教育推進事業」の経過説明について

- 4 委員長等の選任について

#### [協議事項]

- 1 平成24年度 山形人材育成委員会事業計画書(案)について

- 2 平成24年度大学間連携共同教育推進事業収支予算書(案)及び平成24年度山形人材育成委員会収支予算書(案)について

- 5 その他
- 6 閉 会



### 第2回山形人材育成委員会総会

日 時 平成25年2月5日（火）  
 13:30～15:30  
 場 所 ゆうキャンパス・ステーション  
 およびTV会議  
 出席者 24名

#### [議 題]

##### [報告事項]

- 1 平成24年度各部会の活動状況報告について
- 2 社会力育成山形講座パンフレット・ハンドブックについて

##### [協議事項]

- 1 平成25年度山形人材育成委員会事業計画（案）について
- 2 平成25年度山形人材育成委員会収支予算（案）について

##### [その他]

- 1 YTS「提言の広場」での広報について
- 2 キックオフシンポジウムの開催について

#### 【企画運営部会】

### 第1回山形人材育成委員会企画運営部会

日 時 平成24年12月25日（月）  
 13:30～15:30  
 場 所 ゆうキャンパス・ステーション  
 出席者 16名

#### [議 題]

- 1 開 会
- 2 【企画運営部会】
  - (1) 部会長の選任について
  - (2) 広報関連事業について
    - ・パンフレット
    - ・ハンドブック
    - ・Web サイト
  - (3) 平成25年度山形人材育成委員会事業計画（案）について
  - (4) 平成25年度山形人材育成委員会収支予算（案）について
  - (5) 意見交換
- 3 その他
- 4 閉 会



#### 【共同教育部会】

### 第1回山形人材育成委員会共同教育部会 （チーム会議含）

日 時 平成24年11月16日（月）  
 13:00～15:00  
 場 所 ゆうキャンパス・ステーション  
 出席者 17名

#### [議 題]

- 1 開 会
- 2 【チーム別会議】
  - (1) チーム代表の選任について

### 3 【共同教育部会】

- (1) 部会長の選任について
- (2) 各教育の内容について
  - ① 社会人力育成山形講座の概要
  - ② フィールドワーク山形
  - ③ 山形プロジェクト教育
    - ・ 地域プロジェクト教育
    - ・ コーオプ教育
  - ④ 山形起業教育
  - ⑤ リーダーシップ教育
- (3) 意見交換

4 その他

5 閉 会

### 第2回山形人材育成委員会共同教育部会

日 時 平成24年12月19日(水)

13:00~15:00

場 所 ゆうキャンパス・ステーション  
およびテレビ会議

出席者 16名

#### [議 題]

- 1 開 会
- 2 山形講座の進捗状況と今後の取り組みについて  
「山形を知り、山形を愛し、山形で働き、山形を担う」  
フィールドワーク山形  
山形プロジェクト教育  
山形起業教育  
リーダーシップ教育
- 3 山形講座の学生への周知について
- 4 共同教育FDについて  
共同教育FDの進め方について  
24年度先行事例調査
- 5 その他
- 6 閉 会

### 第3回山形人材育成委員会共同教育部会

日 時 平成25年1月30日(水)

13:30~15:30

場 所 ゆうキャンパス・ステーション及び  
テレビ会議

出席者 15名

#### [議 題]

#### [報告事項]

- 1 山形講座の進捗状況と今後の取り組みについて
  - 1) 「山形を知り、山形を愛し、山形で働き、山形を担う」
  - 2) 山形フィールドワーク教育
  - 3) 山形プロジェクト教育
  - 4) 山形起業教育
  - 5) リーダーシップ教育

#### [協議事項]

- 1 共同教育評価について
- 2 山形講座の周知について
  - 1) パンフレット(案)
  - 2) ハンドブック(案)
  - 3) 今後の広報の予定
- 3 その他
  - 1) 先行事例調査について
  - 2) 今後の予定

### 第1回山形プロジェクトチーム会議

日 時 平成25年3月18日(月)

11:00~12:30

場 所 ゆうキャンパス・ステーション  
出席者 5名

#### [議 題]

- 1 共同教育部会の現状報告について
- 2 共同教育評価について
- 3 山形講座の周知について
- 4 その他

### 第4回山形人材育成委員会共同教育部会

日 時 平成25年3月18日(月)

13:30~15:30

場 所 ゆうキャンパス・ステーション  
出席者 16名

#### [議 題]

#### [報告事項]

- 1 山形講座の進捗状況と今後の取り組みについて
  - 1) 「山形を知り、山形を愛し、山形で働き、山形を担う」
  - 2) 山形フィールドワーク教育

- 3) 山形プロジェクト教育
  - 4) 山形起業教育
  - 5) リーダーシップ教育  
ベトナム現地調査報告
  - 2 山形講座の周知について
    - 1) パンフレット・ハンドブック
    - 2) Web サイトの開設について
- [協議事項]
- 1 共同教育評価について
- [その他]
- 1 先行事例調査について
  - 2 提言の広場について
  - 3 キックオフシンポジウムについて



**【連携取組評価部会】**  
第1回山形人材育成委員会

**連携取組評価部会**

日 時 平成24年11月29日(木)  
13:30~16:00

場 所 ゆうキャンパス・ステーション

出席者 15名

[議題]

- 1 開 会
- 2 **【連携取組評価部会】**
  - (1) 部会長の選任について
  - (2) 講演  
テーマ:『大学教育の評価』  
講 師:リアセックキャリア総合研究所  
所長 角方 正幸 氏

- (3) 連携取組評価部会の取組について
- (4) 意見交換
- 3 そ の 他
- 4 閉 会

**第2回山形人材育成委員会**

**連携取組評価部会**

日 時 平成25年2月22日(金)  
13:30~15:30

場 所 ゆうキャンパス・ステーション

出席者 12名

[議題]

[報告事項]

- 1 教育評価に関わる調査研究委託事業の報告

[協議事項]

- 1 共同教育評価及びIRシステム評価について

[その他]

**第1回山形人材育成委員会**

**連携取組評価部会IRシステムチーム会議**

日 時 平成24年12月10日(月)  
15:00~17:00

場 所 ゆうキャンパス・ステーション

出席者 7名

[議題]

- 1 開 会
- 2 IRシステムについて  
山形大学エンrollment・マネジメント部の取り組みについて  
意見交換
- 3 今後の取り組み方について
  - (1) 今後のIRシステム評価の取り組みについて
  - (2) 意見交換
- 4 そ の 他
- 5 閉 会



## 第2回山形人材育成委員会

### 連携取組評価部会 I Rシステムチーム会議

日 時 平成25年2月13日(水)

13:30~15:30

場 所 ゆうキャンパス・ステーション

出席者 9名

[議 題]

- 1 IRシステムの活用方法について
- 2 IRシステムの導入について
- 3 その他



## 10 . 平成24年度 山形人材育成委員会名簿

### 山形人材育成委員会

|                       |        |                        |
|-----------------------|--------|------------------------|
| 山形大学                  | 安田 弘法  | 理事・副学長                 |
| 山形県立保健医療大学            | 伊橋 光二  | 理事                     |
| 東北芸術工科大学              | 花岡 孝   | 法人企画課長                 |
| 東北公益文科大学              | 平松 緑   | 学部長・教授                 |
| 東北文教大学<br>東北文教大学短期大学部 | 大川 健嗣  | 学部長・教授・<br>地域交流研究センター長 |
| 山形県立米沢女子短期大学          | 小嶋 隆一  | 教授                     |
| 羽陽学園短期大学              | 田中 ふみ子 | 学科長・教授                 |
| 鶴岡工業高等専門学校            | 神田 和也  | 教授                     |
| 山形県立産業技術短期大学校         | 藤原 茂樹  | 副校長兼事務局長               |
| 山形工科短期大学校             | 勝見 英一朗 | 校長                     |
| 山形県                   | 後藤 紀夫  | 学事文書課長                 |
| 山形県市長会                | 小林 実   | 事務局長                   |
| 山形県町村会                | 阿部 慎一  | 事務局長                   |
| 山形県商工会議所連合会           | 富田 博   | 常任理事                   |
| 山形県商工会連合会             | 伊藤 俊夫  | 専務理事                   |
| 山形県中小企業団体中央会          | 横澤 正昭  | 副会長兼専務理事               |
| 社団法人 山形県経営者協会         | 長岡 喬   | 専務理事                   |

### 企画運営部会

|                       |        |                        |
|-----------------------|--------|------------------------|
| 山形大学                  | 横井 博   | 教授                     |
| 東北芸術工科大学              | 花岡 孝   | 法人企画課課長                |
| 東北公益文科大学              | 平松 緑   | 学部長 / 教授               |
| 東北文教大学<br>東北文教大学短期大学部 | 大川 健嗣  | 学部長・教授・<br>地域交流研究センター長 |
| 山形県立産業技術短期大学校         | 山田 茂雄  | 事務局次長                  |
| 山形県                   | 後藤 紀夫  | 学事文書課長                 |
| 山形県市長会                | 小林 実   | 事務局長                   |
| 山形県町村会                | 阿部 慎一  | 事務局長                   |
| 山形県商工会議所連合会           | 森 晃    | 事務局次長・総務部長             |
| 山形県商工会連合会             | 内藤 幸太郎 | 事務局長                   |
| 山形県中小企業団体中央会          | 作田 和典  | 事務局長                   |
| (社) 山形県経営者協会          | 長岡 喬   | 専務理事                   |

## 共同教育部会

|                       |       |                        |
|-----------------------|-------|------------------------|
| 山形大学                  | 横井 博  | 教授                     |
| 山形県立保健医療大学            | 山下 隆夫 | 理事兼教授                  |
| 東北芸術工科大学              | 池田 知之 | 講師                     |
| 東北文教大学<br>東北文教大学短期大学部 | 大川 健嗣 | 学部長・教授・<br>地域交流研究センター長 |
| 羽陽学園短期大学              | 小林 浩子 | 准教授                    |

### 【山形フィールドワーク教育チーム】

|               |       |            |
|---------------|-------|------------|
| 山形大学          | 滝澤 匡  | 准教授        |
| 東北芸術工科大学      | 志賀 研吾 | 教学事務室課長    |
| 東北公益文科大学      | 神田 直弥 | 准教授        |
| 山形県立産業技術短期大学校 | 岡崎 徹  | 情報システム科准教授 |
| 山形工科短期大学校     | 菅原 邦生 | 講師         |

### 【山形プロジェクト教育チーム】

|                       |        |                        |
|-----------------------|--------|------------------------|
| 山形大学                  | 横井 博   | 教授                     |
| 東北芸術工科大学              | 志賀 研吾  | 教学事務室課長                |
| 東北公益文科大学              | 温井 亨   | 准教授                    |
| 東北文教大学<br>東北文教大学短期大学部 | 大川 健嗣  | 学部長・教授・<br>地域交流研究センター長 |
| 山形県立米沢女子短期大学          | 亀ヶ谷 雅彦 | 教授                     |
| 鶴岡工業高等専門学校            | 神田 和也  | 教授                     |
| 山形県立産業技術短期大学校         | 押切 剛伸  | 建築環境システム科准教授           |

### 【山形起業教育チーム】

|               |       |           |
|---------------|-------|-----------|
| 山形大学          | 横井 博  | 教授        |
| 東北芸術工科大学      | 池田 知之 | 講師        |
| 東北公益文科大学      | 青木 孝弘 | 特任講師      |
| 山形県立産業技術短期大学校 | 布宮 拓  | 情報システム科教授 |

### 【リーダーシップ教育チーム】

|                       |       |             |
|-----------------------|-------|-------------|
| 山形大学                  | 柴田 孝  | 教授          |
| 東北芸術工科大学              | 志賀 研吾 | 教学事務室課長     |
| 東北公益文科大学              | 鎌田 剛  | 准教授         |
| 東北文教大学<br>東北文教大学短期大学部 | 加藤 隼人 | 講師          |
| 山形県立産業技術短期大学校         | 渡辺 雄二 | 知能電子システム科教授 |

### 連携取組評価部会

|                       |        |                        |
|-----------------------|--------|------------------------|
| 山形大学                  | 横井 博   | 教授                     |
| 山形大学                  | 柴田 孝   | 教授                     |
| 山形大学                  | 滝澤 匡   | 准教授                    |
| 東北芸術工科大学              | 志賀 研吾  | 教学事務室課長                |
| 東北公益文科大学              | 青木 孝弘  | 特任講師                   |
| 東北文教大学<br>東北文教大学短期大学部 | 大川 健嗣  | 学部長・教授・<br>地域交流研究センター長 |
| 山形県立産業技術短期大学校         | 工藤 誠   | メカトロニクス科<br>教授         |
| 山形県                   | 後藤 紀夫  | 学事文書課長                 |
| 山形県市長会                | 小林 実   | 事務局長                   |
| 山形県町村会                | 阿部 慎一  | 事務局長                   |
| 山形県商工会議所連合会           | 森 晃    | 事務局次長・総務部長             |
| 山形県商工会連合会             | 黒田 喜久夫 | 参事                     |
| 山形県中小企業団体中央会          | 作田 和典  | 事務局長                   |
| (社)山形県経営者協会           | 長岡 喬   | 専務理事                   |

### 【教育評価チーム】

|                       |        |                 |
|-----------------------|--------|-----------------|
| 山形大学                  | 横井 博   | 教授              |
| 山形大学                  | 柴田 孝   | 教授              |
| 山形大学                  | 滝澤 匡   | 准教授             |
| 東北芸術工科大学              | 志賀 研吾  | 教学事務室課長         |
| 東北公益文科大学              | 青木 孝弘  | 特任講師            |
| 東北文教大学<br>東北文教大学短期大学部 | 土居 洋平  | 准教授             |
| 山形県立米沢女子短期大学          | 亀ヶ谷 雅彦 | 教授              |
| 鶴岡工業高等専門学校            | 神田 和也  | 教授              |
| 山形県立産業技術短期大学校         | 堤 和司   | 建築環境システム科<br>教授 |

【 I R システム評価チーム】

|                       |       |                 |
|-----------------------|-------|-----------------|
| 山形大学                  | 福島 真司 | 教授              |
| 山形大学                  | 横井 博  | 教授              |
| 山形大学                  | 柴田 孝  | 教授              |
| 山形大学                  | 滝澤 匡  | 准教授             |
| 山形大学                  | 鈴木 啓伸 | 渉外部渉外課係長        |
| 東北芸術工科大学              | 志賀 研吾 | 教学事務室課長         |
| 東北公益文科大学              | 古山 隆  | 准教授             |
| 東北文教大学<br>東北文教大学短期大学部 | 三枝 和也 | 総合企画課長          |
| 山形県立米沢女子短期大学          | 星 和彦  | 教務学生課長          |
| 山形県立産業技術短期大学校         | 船場 忠幸 | 知能電子システム科<br>教授 |

**[お問合せ]**

大学コンソーシアムやまがた・山形人材育成委員会(山形大学涉外課サテライト)

山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル3階

TEL. 023-641-2681 FAX. 023-641-2682

E-mail : [sodateru-y@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:sodateru-y@jm.kj.yamagata-u.ac.jp) HP:<http://sodateru-y.jp/>

**[山形人材育成委員会]**

山形大学・山形県立保健医療大学・東北芸術工科大学・東北公益文科大学・東北文教大学・  
山形県立米沢女子短期大学・羽陽学園短期大学・東北文教大学短期大学部・鶴岡工業高等専  
門学校・山形県立産業技術短期大学校・山形工科短期大学校

山形県・山形県市長会・山形県町村会・山形県商工会議所連合会・山形県商工会連合会・山  
形県中小企業団体中央会・(社)山形県経営者協会